



無病息災を祈り、「茅の輪」をくぐる参拝客(川越八幡宮で)

川越市南通町の川越八幡宮で30日、江戸時代から続く伝統行事「茅の輪くぐり」が始まり、大勢の参拝客が無病息災を願った。3日まで。

参拝客は「^{かたしろ}形代」と呼ばれる紙人形に名前と年齢を書き、神職のおはらいを受けて、チガヤで作られた「茅の輪」(直径約2・5メートル)を8の字を描くようにくぐった。その後、形代を持って本殿の前に進み、神前にささげた。正月から半年間の邪気が形代に移り、病気や災難を引き受けてもらうという。

3歳の孫を連れて参拝した同市の会社社長稲垣利郎さん(66)は「今年も猛暑になりそうだが、家族そろって健康に乗り切りたい」と話していた。

この日は、熊谷市宮町の高城神社で「胎内くぐり」、小鹿野町の小鹿神社でも「茅の輪くぐり」が行われた。